

# 極楽寺だより

長門市三隅下  
野波瀬  
0837(43)0625

いつく  
慈しみの光あふれる春となりました。

いのち いぶき かん  
生命の息吹を感じるとき、お浄土の人とな

かたがた なつ  
られた方々が懐かしくしのばれます。

によらい おん そだ  
如来さまのおすくいのご恩、お育てのご

おん あじ おん かんしゃ  
恩を味わい、仏祖のご恩を感謝して、春の

えいたいきょうほうよう  
永代経法要を次のとおりおつとめしま

さそ まい  
す。お誘いあわせ、お参り下さい。

日時 四月十九日(月)

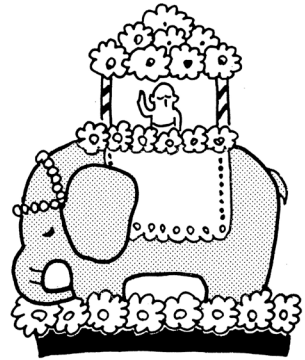
昼一時半 夜七時半

四月二十日(火)

昼一時半

講師 福岡 飯塚市 明圓寺住職

大分 哲照 師



しゃか たんじょう いわ ほんどう  
お釈迦さまのご誕生を祝い、春の法要の二日間、本堂  
はなみどう あまぢや  
に花御堂を飾ります。ご自由に甘茶をかけて下さいね。

甘茶お持ち帰りをご希望の方は、どうぞお申し出下さい。

# 花まつり

# 春の永代経法要のご案内



極楽寺境内に、親鸞聖人の銅像が建立されました。これは、昨年勤修されました親鸞聖人七五〇回大遠忌法要並びに第二十三代住職継職法要の稚児宿を引き受けて下さいました宮崎茂之家、小林明家の皆様から、その記念にと寄進していただいたものです。

親鸞聖人ご在世の時代は、まさしく乱世であり、力のない者、弱い者、貧しい者は、蔑まれ、見捨てられ、あつてもなきに等しい「いしかわらつて」のごとくに扱われていた時代でありました。親鸞聖人とは、その人々と共に「われら」として生き抜かれた方でした。それは、すべてのいのちを黄金のように輝かせ、虚しいものにならないといとおしまれた、阿弥陀如来の願いを拠りどころとされた歩みでもありました。

一方、私たちが生きるこの現代社会はというと、共に喜び、悲しみ、出遇いを深めていくことよりも、自分の世界に閉じこもり、自分の欲求のままに生きる傾向が剥き出しとなつています。そのため、



## 境内に、親鸞聖人の銅像が建立されました

利用可能か、効率が良いか、邪魔かどうかばかりが問題とされ、いつしかいのちが、欲求を満たすための部品のように消費されるようになりませんでした。利用価値のないのちは「いしかわらつて」のごとく蔑まれてもいます。それは出遇いを遠ざけ、思いやり、寛容を奪い、人を蔑むことでしか喜べない悲しい時代を生み出してしまいました。こんな時代だからこそ、聖人の歩みを道標として、人生を見つめ直していくことの大切さを深く噛みしめなくてはならないと思うのです。

聖人の銅像は、石階段を上がって来られた方々を、あたかも「よくお参りに来られましたね」と温かく迎えて下さるように建てられました。聖人が歩み、私たちに指し示して下さった道を、共に歩んでいきたいものです。この銅像は、まさしく極楽寺のシンボルです。



建立式を執り行いました。



# 太陽光発電を導入しました

今年こゝねの一月いちがつより、太陽光発電たいやうこうはつでんを庫裏くりの屋根やきにとりつけました。

これは、『平成21年度地域新エネルギー等導入促進事業』対策費補助金ほじょきんの交付こうふを受けて設置せつちしたものです。私たちが人間中心にんげんちゆうしんの考かんがえ方かたをもとに便利べんりさ快適かいてきさを求めることことで、環境破壊かんきやうはかいが進みしん、深ふかく

刻こゝろな問題もんだいになっています。その問題意識もんだいを高たかめていく一助いちじゆとして

お寺てらも協力きやうりきし、アピールあぴるして欲しいほしいということことで助成すけいせいされました。ぜひぜひ、積極的せつぎよくてきに取り組とりにくんでいきたいほしいと思います。

ただ、本願寺ほんがんじの大谷光真おおたにこうしんご門主もんしゆは、著書『愚の力』(文春新書)で、人間中心にんげんちゆうしんの考かんがえ方かたについてこのように示しされています。

人間の欲望よくぼうには限りかぎがありません。動物どうぶつも欲望よくぼうがあります

が、お腹おながいっぱいいっぱいになればそれ以上それいじやう食くべようとはしませ

ん。ところが人間にんげんは満腹まんぷくしてもなお食くべようとし、それを繰くり返かえしついに病びやう気きになつたりもします。お金おカネもそうです。

米国の投資銀行とうしぎんこうなどの経営者けいえいしやは何十億円なにじゆいげん、何百億円なにひやくいげんも儲もうけて

いたそうです。個人こじんではとても使つかいようがないのに、なお儲もうけようとする。そうして世界規模せかいきぼの経済破綻けいざいはたんを招まねいてしま

ました。長寿ちやうじゆが実現じゆみして寿命じゆみも八十年まんじゆくで満足まんぞくするかといえ

望ぼう』というのが昔むかしからの大きな課題かだいでした。／七三年しちねんに／親鸞聖しんねん人御生誕ごせいだん八百年はちひゃくねん・立教開宗りつぎやうかいしゆ七百五十年しちひゃくごじゆねんということことで大きな法要ほふぎやうや行事ぎぎがありました。／そのころは「物もので榮さかえて心こゝろで減ほろびる」とい

うキャッチフレーズせいしんぶんかがあつて、／私も／「物の繁榮はんえいに負まかけないよ

うに精神文化せいしんぶんかを高たかめて、物もので減ほろびるといふことを規制きせいしなければ

ならない」と話わしていました。ところがこれがあべこべでは

ないかと考かんがえるようになったのです。「物もので榮さかえて心こゝろで減ほろびる

のではない、／「心こゝろを減ほろぼしたからこそ物もので榮さかえられた」のでは

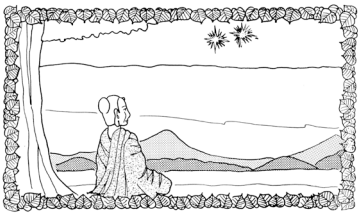
ないかと。今回こんかい、太陽光発電たいやうこうはつでんを設置せつちしたからと、「環かん境きやうに配慮はいりよしている」「エコエコに貢献こうけんしている」

などという思おもいでいると、とんでもない勘違かんちがいをしてかすのではないかと考かんがえさせられま

した。歯止はどめなき欲望よくぼうや、心こゝろを減ほろぼし続つづけて

いる自分の姿まよに向むかき合あうことことなくしては、ま





# 極楽寺掲示伝道

けいじでんどう

今年1月より、毎月掲示伝道を始めました。野波瀬だけではなく、豊原・向山・久原・辻並など、いろんな場所に掲示しております。反響も上々で、これからも続けていきたいと思っています。どうぞ、ご期待下さい！

## 4月の言葉

寒さにふるえた者ほど  
太陽を暖かく感じる  
人生の悩みをくぐった者ほど  
生命の尊さを知る

極楽寺  
掲示伝道

季節の変わり目は天候が不安定ですが、今年ほど極端な年は、そうはありませんね。暖かな日が続くかと思うと、驚くような冷え込みが訪れ、とんでもない大雪さえ降りました。春一番はどうにやってきましたはずなのに、三番も四番と言わんばかりの強風が吹き荒れる。暖かで、穏やかな陽が来るのが待ち遠しかったのは、私だけではないのでは。やはり、寒さにふるえた経験が、太陽の暖かさの喜びを深くするのでしよう。それは、人生においても同じことなのかもしれない。悩みや、苦しみ、人間の弱さを知るからこそ、生命がいかに大きな力に支えられ

ているか、その尊さと温もりを知るのだと教えられます。

解剖学者の養老孟司さんは、昔の人たちは、

「人生、思い通りにならないことが当たり前」

だと思っていたが、現代人は「思い通りになる

ことが当たり前」だと思っていると言われている

ます。電車が一分遅れたことで大きなニュース

になる時代ですから、それだけ思い通りで快

適・便利が当たり前になり、待てず、許せない

時代だと言えるでしょう。しかし逆に考える

と、待つてもらえない、許してもらえない中で

生きるというのは、本当にしんどいことです。

「思い通りにならない人生」であることを、悩

みや悲しみを通して深く味わうからこそ、優

さも寛容の心も生まれてくるのではないでし

ようか。仏教では、人生の苦しみの根っこを「不

如意(思い通りにならない)」だといいます。

それは、「思い通り」になれば解決するもので

はなく、その事実を受け止めることからしか始

まらないことを、教えて下さるのです。